

# 知れば知るほど奥が深い お米作りのきほんの **き**



## ～お米作りのスタートは秋の田起こしから編～

稲刈りが終わって一息ついているころではないですか？少し休んだら秋の田起こしを始めましょう。



『秋の田起こし』なにが良いかというと、圃場を耕すことで、空気が入り微生物の動きが活発化。ワラなどの分解を早めることが出来ます。深く耕す必要は無く、むしろ浅く荒くするだけで大丈夫。これをする、田植えの時にワラが浮かずに田植えがしやすくなり、ワラが分解されるときに出るガスの発生も無く、初期生育が良くなり丈夫なイネになります。気温の高い稲刈後の時期にワラと一緒に耕してしまいましょう。

今回は、秋の田起こしをするときに一緒に入れると稲わらの腐植や雑草の対策が出来るものを紹介していきます。

## 稲わらの腐敗促進

おすすめ資材は、この2つ!!

### 石灰窒素

肥料効果、農薬効果、有機物腐熟促進効果があり、稲わらや野菜残渣などの有効利用に使えます。

(粒状の場合)

#### 肥料効果

窒素成分20%・アルカリ分50%。窒素成分が緩効性で流亡しにくく、アルカリ分は、カルシウムの補給と酸性土壌の改良にいい。

#### 農薬効果

カルシウムシアナミド55%。農薬効果を発揮し1年生雑草を枯らす。(50～70kg/10a)

ヒエの休眠覚醒を行い早く発芽させる。(40～50kg/10a)

#### 有機物腐熟促進効果(土づくり)

稲わらに窒素成分を補給。石灰分の効果で稲わらをやわらかくし、微生物の活性化を促し、腐熟させる。(20kg/10a)

(使用方法)

散布後、浅く耕起



### 根友G

様々な菌が入っており、稲わらやその他の残渣が分解され、次作の水稲の時にワラが浮き上がらず、硫化水素を分解し、ガス害を減らします。

#### 効果

- ・初期生育の向上
- ・根量の増加
- ・有効茎の増加
- ・茎が丈夫になり粒数増加

(使用方法)

田植え前までに、20～40kg散布して耕起



## 雑草対策

ヒエなど雑草の種子は休眠し、冬を経過してから発芽します。

#### 除草剤で対策

クログワイなど地下に塊茎を作る雑草には根まで枯らせる除草剤を使用し枯死させる。

#### 根まで枯らせる除草剤

おすすめ資材は、この2つ!!

### ラウンドアップマックスロード

一般的な非選択性の除草剤で根まで枯らす。散布後1時間後の降雨でも効果を発揮するのが特徴。最近では専用ノズルで超少量散布が出来る。



### サンフーロン液剤

初代ラウンドアップと同じ成分で安価な非選択性除草剤。冬場の寒い時期では効果が遅くなったりするが、刈取後の時期では十分効果が期待できる。



#### 石灰窒素の使用

シアナミドの効果により休眠を覚醒させ発芽。少し湿っていたほうが効果的で、刈取後できるだけ早く石灰窒素を散布し発芽させる。冬の寒さで枯らしたり、耕起することで枯死させる。